2024 3.4 vol.1065

JAグループ

JA全農ウィークリー

JA ZEN-NOH WEEKLY

4-5面

スタートアップインタビュー
㈱ミライ菜園代表取締役
畠山友史さん（広報・調査部）

2面

JA全国女性協と
ハンドクリーム共同開発
（くらし支援部）

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから

https://www.zennoh-weekly.jp/

全農® 食と農を未来へつなぐ。
全農グループ

News!

無理せず気軽に作れる「ゆるっと地味弁」レシピ

「地味弁.com」で人気料理家のレシピを公開中

米穀部

全農は、新生活のスタートを応援するために2月28日に特設サイト「地味弁・com」で「ゆるっと地味弁」レシピを公開しました。

公開するレシピは、山田英季さん、みないきぬこさん、小林まさみさんの3人の人気料理家が考案しました。「フライパン1つで出来る簡単レシピ」「1つのメニューを覚えればアレンジ可能なレシピ」など、お弁当作りが未経験の方でも、気軽にお弁当ライフを始めることができるレシピがそろっています。

「地味弁・com」では、2019年から「無理せず気張らずみんなが幸せになるお弁当生活」を提案し、国産農畜産物の消費拡大を図っています。

「地味弁.com」のサイト

「地味弁.com」は
こちらから

News!

農業機械展示予約会を実施

「共同購入コンバイン」、ミニ講習会に注目集まる

神奈川県本部

神奈川県本部は2月2、3日に県本部田村事業所（平塚市）で「2024冬農業機械展示予約会」を開催しました。農機・資材メーカーを中心に37社が出展し、1528人が来場しました。

当日はメーカーが最新製品を展示したほか、JA生活購買品の販売や、農協牛乳の配布などJAグループの各事業をPRするブースも設置され、場内はにぎわいました。

昨年12月に発表された「共同購入コンバイン」や県内農業に適した機種の一括購入により低価格を実現した「JAグループ神奈川推奨型式」や中古農機販売会の会場にも注目が集まりました。また、「農作業安全」「セルフメンテナンス」など営農に役立つ情報を紹介するミニ講習会もコロナ禍後、久しぶりに実施しました。

ミニ講習会では耕運機のセルフメンテナンス方法を説明

News!

JA全国女性協とハンドクリーム共同開発

エーコープマーク品　農作業や家事の合間のケアに

くらし支援部

全農は、4月にJA全国女性組織協議会との共同開発品として「ハンドクリーム」を販売します。

新しいエーコープマーク品として販売する本商品は、国産玄米を使ったこうじから抽出した手肌保護成分である「アスペルエキスゴールド」を5％程度配合した手肌ケア用のハンドクリームです。

同協議会理事の方々の意見も踏まえ、今までにないかわいらしいパッケージデザインに仕上げています。また、保湿性の高さとベタつきを抑えた成分配合にしており、家事や農作業の合間など、日常使いに便利です。全農は、今後も女性部を中心とした組合員の皆様の声を反映した商品開発を行っていきます。

アスペルエキスゴールドを5％程度配合したハンドクリーム

卓球・カーリングの日本一が決定

「ニッポンの食」で選手を応援

「全農ブース」「もぐもぐブース」を設置して盛り上げ

全農は1月に開催された「2024年全日本卓球選手権大会」に協賛、「第41回全農日本カーリング選手権大会」に特別協賛し、選手の皆さんを「ニッポンの食」で応援しました。【広報・調査部】

全日本卓球選手権大会（一般・ジュニアの部）

シングルスでは張本選手・早田選手が優勝
ニッポンエールのご当地グミを展示

全農は1月22～28日に開催された「2024年全日本卓球選手権大会（一般・ジュニアの部）」に協賛し、副賞を贈呈したほか、47都道府県を制覇したニッポンエールのご当地グミの展示などを実施しました。

全農は2011年度から同大会に協賛しています。28日の男女シングルスの表彰式では、優勝した張本智和選手（智和企画）と早田ひな選手（日本生命）に、野口栄代表理事理事長が副賞として、JAタウンギフトカードと全農直営・みのりみのるブランドの飲食店舗で使用できる食事券を贈呈しました。

会場内には「全農ブース」を出展し、全農の商品ブランド「ニッポンエール」で、47都道府県の商品がそろったご当地グミの展示などを行いました。さらに27、28日にはアンケートにご協力いただいた方を対象に「JAタウンギフトカード」や「全農所属 石川佳純さん 卓上カレンダー2024年版」などの豪華賞品が当たる抽選会を開催し、会場を盛り上げました。

優勝した張本選手と早田選手にそれぞれ野口理事長から副賞を贈呈

これからも全農は卓球日本代表のトップパートナーとして「ニッポンの食」を通じて卓球競技を応援します。

第41回全農日本カーリング選手権大会

世界大会の男子・女子日本代表が決定
全チームへ全国各地のイチゴ提供も

全農は1月27日～2月4日に北海道札幌市・どうぎんカーリングスタジアムで開催された「第41回全農日本カーリング選手権大会」に特別協賛し、選手の皆さんを「ニッポンの食」で応援しました。

2月4日の決勝戦で男子はコンサドーレ、女子はSC軽井沢クラブが優勝しました。両チームは3、4月に行われる「世界カーリング選手権大会2024」に日本代表として出場します。

優勝した両チームには副賞として、開催地の道産米「ななつぼし」1㌧を全農の折原敬一経営管理委員会会長から贈呈しました。

大会期間中は、出場選手にハーフタイムや試合前後でのエネルギー補給として活用してもらえるよう「もぐもぐブース」を設置。「農協ミルク」や「とろとろ半熟ゆでたまご」、全農の商品ブランド「ニッポンエール」の新商品「ラスク仕立てのバームクーヘン」などを取りそろえました。さらに、全チームへ全国各地のイチゴの提供も行いました。

折原会長が優勝チームへ副賞を贈呈

大会前日の記者会見で出場選手代表に「ニッポンの食」の目録を贈呈

全農はこれからも「ニッポンの食」を通じてカーリング競技を応援します。

AI使って病害虫防除アプリ 実証先の声聴き課題解決へ

㈱ミライ菜園代表取締役 畠山友史さん

実際の生産者の声を聴く中で病害虫アプリの開発を決意

JAアクセラレータープログラム第5期に採択された㈱ミライ菜園は愛知県で創業したスタートアップで、人工知能（AI）による病害虫発生予報で生産者の予防的防除を支援しています。代表取締役の畠山友史さんに話を聞きました。【広報・調査部】

※JAアクセラレータープログラムとは、JAグループの持つ幅広いネットワークを用いてスタートアップなどの事業成長を支援する取り組み

病害虫診断「SCIBAI」防除DXアプリ「MIRAI」

――事業について教えてください。

2019年の創業から病害虫AI診断サービスの開発に取り組んでおり、スマートフォンにアプリをインストールし写真を撮るだけで病害虫診断ができる「SCIBAI（サイバイ）」というアプリを主に家庭菜園向けに提供しています。

農業の現場でも作物の病害虫被害は収穫量の最大4割に達するといわれており、被害抑制には予防を基本とした適切な対処が欠かせません。しかし、気候変動の影響が強まる中、「今までにないタイミングで病害虫が発生する」「見たことのない病害虫が発生する」など、勘と経験では通用しないケースが増えています。そこで、ミライ菜園では既存の「SCIBAI」に加えて、23年からAIを用いた病害虫発生予報や病害虫発生マップを搭載した、防除DXアプリ「MIRAI（ミライ）」の開発・提供を行っています。

――「MIRAI」の特徴を教えてください。

「MIRAI」は、病害虫の対処に欠かせない「今」と「未来」が分かるアプリです。まず「今」の発生状況が分かるマップでは、指導員や生産者が発見した病害虫を簡単に共有でき、地域の発生状況がリアルタイムに可視化されます。次に「未来」、病害虫予報AIが日々の病害虫の発生危険度を1週間後まで予報します。「例年ならまだ防除不要だが、アプリ上で今後の危険度が上昇傾向にあるから今週防除しておこう」など事前に防除指導・防除計画を修正し、異常気象に対処できます。予防的防除により収量増が見込めるだけでなく、農薬散布回数が減り、省力化できる点も生産者の大きなメリットになります。また、この病害虫予報AIは、当社が開発したもう一つのアプリ「SCIBAI」で収集された病害虫診断履歴を活用しており、その仕組みは特許を取得しています。

㈱ミライ菜園代表取締役の畠山友史さん

病害虫被害は世界共通 技術をグローバル展開

――JAアクセラレーター プログラムに参画していかがでしたか。

JAグループからの支援を受けたことにより、アプリの実証先開拓と各地域のJAへヒアリングする機会を得ました。JAや生産者の生の声を聴くことで、ビジネスモデルの明確化を行うことができました。

さらに同プログラムを通じて実証先が1JAから6JAまで増え、実証先からのフィードバックがアプリ改善に非常に役立っています。また、当初想定していませんでしたが、全農の群馬県本部をはじめとした都道府県段階組織との連携の可能性があることを発見することができ、大きな収穫となりました。実証に参加した若手生産者からは「アプリの予報に基づき予防的防除を行ったことで、病害虫被害が軽減できた」との声もあり、新規就農者や若手生産者にとって特に効果が見込めるサービスだと考えています。

ヒアリングを通してアプリに対するフィードバックを受ける

防除DXアプリ「MIRAI」の画面イメージ

実証先に対して「MIRAI」の使用方法を説明

――今後JAグループと取り組みたいことはありますか？

営農情報のデジタル化を進めたい生産者・JAは多いと考えていて、当社は防除に特化したDXに貢献していきます。「MIRAI」は生産者が個々に導入するというよりは、面的に活用することでより効果を発揮するアプリなので、生産者との圧倒的なネットワークを持つJAとの親和性が高いと考えています。地域全体がデジタルでつながり、動的に病害虫被害を減らすという次世代型の防除を実現するために、今後も既存実証先との関係強化と新たな実証先の開拓に取り組みます。

またヒアリングの中で、JAの持つ「若手の育成」「ノウハウの継承」といった中長期的な課題が見えてきました。「MIRAI」の提供を通じてこれらの課題解決にも貢献していきます。

――今後の展望を教えてください。

国内の生産者は生産資材の高騰、気候変動による異常気象などさまざまな課題を抱えています。その中で生産を継続するために、肥料や農薬など資材を投入して生産する農産物を、いかに品質を安定させロスしないか、といった生産効率の向上が求められているように感じます。

逆に言えば、そのような環境で磨かれた国内の栽培技術は世界的にみても高水準であることから、AIをはじめとした先進技術を組み合わせれば、技術を輸出し世界の農業生産にも貢献していけると考えています。

病害虫被害は世界共通の課題です。当社は国内の生産者・JAが抱える課題を解決しながら、同時にその技術をグローバル展開することで、世界の農業の生産性・持続可能性向上に貢献していきます。

MIRAI SCIEN
ミライ菜園

ミライ菜園 ロゴ

生産者のもとに足を運び病害虫指導を受ける畠山さん(右)

お問い合わせはこちら
メールアドレス
info@mirai-scien.com
ミライ菜園HPはこちら

令和5年度　全農の主な取り組み【第4回】

令和5年度の全農の主な取り組みを紹介します（全5回）。

耕種総合対策部

労働力支援協議会の設立と農業関係人口増加へ「91農業」推進

全農は労働力支援にかかる取り組みとして、2020年度から21年度にかけて全国を6地区に分けたブロック別労働力支援協議会と、それらを取りまとめる全国労働力支援協議会を設立しました。

農業労働力不足を、農業を包含する地域全体の問題として解決策を研究し、地方創生につながるよう、新たな仕組みとして設置・展開しています。

さらに、22年度からは多種多様な人材がおのおののライフスタイルに合わせて農業に関われるよう、農業のハードルを下げて農業参加を訴求することを目的に「91農業」を提唱しています。

「91農業」の取り組みの一つとして、全農はパートナー企業との連携による農作業請負、農福連携を拡大し、24年度末に全県での実施を目指しています。

労働力支援協議会の設置状況

「91農業」のロゴ

耕種資材部

農業機械の共同購入第3弾「共同購入コンバイン」決定

全農は2023年12月、農業機械の共同購入第3弾となる「共同購入コンバイン（4条刈り・50馬力クラス）」を「YH448AEJU」（製造元：ヤンマーアグリ㈱）に決定しました。

7000人を超える稲作生産者へのアンケートや農業者団体（※1）の生産者の声をもとに、農機メーカー4社へ開発要求を実施。その後、農業者団体の代表者と共にメーカーから提案のあった開発機の確認を行い、最終的には見積もり比較の上で型式を決定しました。生産者が必要な機能を厳選し、価格を抑えながらも、作業性に優れた機能を採用しています。

受注開始は24年1月、出荷終了は27年9月（予定）で、受注から納品までの期間は約4カ月を予定しています。今後もJAグループ一体となって、生産者のコスト低減につながる農業機械の提案を積極的に展開していきます。

共同購入コンバイン（YH448AEJU）

※1　公益社団法人日本農業法人協会・全国農協青年組織協議会・全国農業青年クラブ連絡協議会

施設農住部

独自の認証制度により プラント施工管理担当者を育成

全農は2014年度から「プラント施工管理担当者認証制度」を開始し、高度化するカントリーエレベーターや選果場をはじめとした農業施設プラントの施工管理を担う担当者を育成しています。

この認証は、一定の実務経験や資格要件を満たす職員を対象として厳正な試験を行い、第三者からなる審査委員会の審査を経て行われています。認証には一級と二級があり、一級認証者には自らの業務に加えて、後継者を育成する役割も求められます。

23年度は一級4人、二級12人が新しく認証され、これまでに延べ167人（うち一級34人、二級133人）の認証試験合格者を輩出。JAからのさまざまなニーズに対応するため全国各地の現場で活躍しています。

選果プラントの現場検査を行う施工管理担当者と関係者ら

JA ズームイン

管内8割で環境保全米運動
「耕畜連携」進め仙台牛は高品質

JAみやぎ登米（宮城県）

概要	2023年3月31日現在
正組合員数	1万2196人
准組合員数	2759人
職員数	542人
販売品取扱高	150億4千万円
購買品取扱高	99億3千万円
貯金残高	1464億2千万円
長期共済保有高	4989億9千万円
主な農畜産物	米、仙台牛、キュウリ

JAみやぎ登米は宮城県の北部に位置しています。地名に「米」という字がある通り、日本有数の米どころで、生きものや環境に優しい米作りである環境保全米運動を管内全域で展開しています。

毎年実施している「田んぼの生きもの調査」

消費者や米卸業者と「田んぼの生きもの調査」

環境保全米とは農薬や化学肥料の使用を慣行栽培の半分以下に抑え、人や環境に優しい安全・安心なお米です。「赤とんぼが乱舞する産地を目指そう！」を合言葉に2003年から開始した環境保全米運動は、現在管内の約8割にあたる5724㌶（23年度）で取り組んでいます。

環境保全米の栽培に取り組む

環境保全米運動の成果を確認するため、消費者や米卸業者とともに「田んぼの生きもの調査」を毎年実施しています。カブトエビなど珍しい生きものも確認され、環境保全米運動を継続してきた成果が形となっています。そして、消費者の皆さまにお米を食べていただくことが、環境を守ることにつながっています。

良質堆肥を田んぼへ還元「環境保全農業」に全力

環境保全米を栽培するために欠かせないのが「耕畜連携」の取り組みによって生産される堆肥です。管内には、有機センターが7施設あり、畜産農家から運び込まれた家畜のふん尿を原料に良質な堆肥を生産し、田んぼへ還元する「循環型農業」を実践しています。また、その田んぼで育った良質な稲わらを肉牛が食べることで高品質な仙台牛が生産されてきました。

管内は仙台牛の主産地であり、全国に先駆けて食味向上と脂質改善のために「もち米・飼料米給与」を行っています。これらの取り組みにより全国的な共進会において上位入賞を果たすなど、県内外の購買者と消費者から高い評価を得ています。

耕畜連携を通して高品質な仙台牛を生産

JAでは自然環境を守るために、みんなの健康のために、子どもたちの未来のために、「環境保全農業」に取り組み続けます。

ふくりすむ 未来へつなぐおくりパワー
JA全農提供FM番組（TOKYO FM／JFN38局）
毎週木曜日15:50～16:00（放送時間はFM局で異なります）
農業に携わる人たちの、農畜産物や生産現場・新技術への想いを伝えます。

全国9産地から人気イチゴそろい踏み

11店舗で「華やかな、春のはじまり。苺フェア」

全農は全国の直営飲食店舗（11店舗）で3月8～24日、イチゴ主産県情報交換会とのコラボレーション企画「華やかな、春のはじまり。苺フェア」を開催します。　【園芸部・フードマーケット事業部】

今年で4年目を迎えるフェアでは、全国9産地（宮城、茨城、栃木、静岡、愛知、福岡、佐賀、長崎、熊本県）が誇る11品種のブランドイチゴを店舗ごとに趣向を凝らしたスイーツやドリンクメニューで提供します。また、3月8～15日にはフェアで使用するブランドイチゴが当たる「みのりみのるカフェ&レストラン」公式Xキャンペーンも実施します。

公式X（旧Twitter）はこちら

メニュー提供概要

期間：3月8日（金）～24日（日）　実施店舗：11店舗

①みのるダイニング札幌店（提供品種：栃木県産とちあいか）
②みのりカフェエスパル仙台店（提供品種：宮城県産もういっこ）
③グリルみのるエスパル仙台店（提供品種：宮城県産にこにこベリー）
④みのりカフェ三越銀座店（提供品種：栃木県産とちあいか、茨城県産いばらキッス）
⑤みのる食堂三越銀座店（提供品種：静岡県産紅ほっぺ、佐賀県産いちごさん）
⑥みのるダイニング名古屋店（提供品種：愛知県産愛きらり）
⑦みのる食堂エキエ広島店（提供品種：佐賀県産いちごさん）
⑧みのりカフェアミュプラザ博多店（提供品種：福岡県産博多あまおう）
⑨みのりカフェ季楽コムボックス佐賀駅前店（提供品種：佐賀県産いちごさん）
⑩みのる食堂アミュプラザくまもと店（提供品種：熊本県産恋みのり・ゆうべに）
⑪みのりカフェ長崎駅店（提供品種：長崎県産ゆめのか）

※共催：いちご主産県情報交換会

みのりカフェ長崎駅店のメニュー

店舗情報はこちら

「栃木とちおとめ いちご」をエキナカ自販機で販売

「acure made」とニッポンエールのWブランド飲料第2弾

全農は、㈱JR東日本クロスステーションのオリジナル飲料ブランド「acure made（アキュア メイド）」とニッポンエールのWブランド商品として「栃木とちおとめ いちご」を共同開発し、3月5日に全国農協食品㈱から販売します。
【営業開発部・栃木県本部・全国農協食品㈱】

旧商品として昨年3月に販売した栃木県産「とちおとめ」果汁を使用した「栃木とちおとめ苺（いちご）」は想定の1.5倍以上のペースで予定よりも前に完売。その第2弾として、一人でも多くのお客さまに栃木県産「とちおとめ」のおいしさを届けようと、すっきり飲める透明果汁15%に見直し、新商品として販売します。

商品には、茎や葉に触れてできた傷や、日当たりによる色むら、不ぞろいな形などにより、生果として流通できないイチゴを活用しています。首都圏エリア中心にJR東日本のエキナカにあるアキュアの自販機約1000台での販売を予定しています。

「栃木とちおとめ いちご」190円（税込み）

JA全農の産地直送通販サイト

JAタウン ショップ紹介

とさのさとアグリコレット

「土佐文旦」は、高知県を代表する冬の味覚の一つで、土佐市を中心に生産されている柑橘（かんきつ）です。ずっしり詰まった大ぶりの果実は、大きいもので800㌘にもなります。

独特の爽やかな芳香と、ぷちっと弾ける食感が特徴です。丁寧に皮をむくと現れるつぶらな果肉は、ほんの少しほろ苦く上品な甘みがあります。1粒食べると小さな実がはじけて、果汁が口いっぱいに広がります。乾燥を嫌うので、外皮がしぼまないよう紙に包むなどして室内の涼しい場所で保管してください。

特選土佐文旦 3L6玉入り（約3.3kg）……4600円（税込み）

ご注文はこちらから

▶ JAタウンはこちらから　https://www.ja-town.com
▶ お問い合わせは　shop@ja-town1.com

発行／全国農業協同組合連合会　2024年（令和6年）3月4日発行（毎週月曜日発行）
第3461号　編集・発行人／広報・調査部　新妻成一
〒100－6832 東京都千代田区大手町1丁目3番1号JAビル　TEL03（6271）8055

『JA全農トピックス』の公式X（旧Twitter）はこちらから

私たち全農グループは、生産者と消費者を　安心で結ぶ懸け橋になります。